

6 ROUND

NOV 2011

RACING PRESS

apan

**2011 SUPER TAIKYU ROUND6
MOTEGI ROAD RACE**



2011 SUPER TAIKYU SERIES

いばるう!日本
e are all together.



TWIN RING MO

Round 6 MOTEGI ROAD



Editor

吉川絹恵

Text

島村元子 (THE FACE)

Photo

鉄谷康博

中村佳史

**2011 SUPER TAIKYU ROUND 6
MOTEGI ROAD RACE
11/27**

王者BMW Z4が有終の美を飾る!



[決勝結果]

- 優勝 1 PETRONAS SYNTIUM BMW Z4M COUPE 谷口信輝/DOMICANG/柳田真孝
- 2位 28 PETRONAS SYNTIUM BMW Z4M COUPE 片岡龍也/FARIQE HARUMAN/FEIHOONG OOI
- 3位 11 KEISHIN☆JIMGAINER Coupe 川口正敏/GAMISAN/植田正幸



RSオガワランサーが逆転でチャンピオンに!



[決勝結果]

- 優勝 20 RS オガワ ADVAN ランサー 大橋正澄/阪口良平/松本武士
- 2位 6 新菱オート☆DIXCEL☆EVOIX 富樹朋広/菊池 靖
- 3位 59 東和・MOTUL・ED・インプレッサ 大澤学/吉田寿博/松田晃司

チーム孝太 悲願のチャンピオン獲得!



[決勝結果]
 優勝 339 GPO+KOTA RACING NSX 北野浩正/佐々木孝太/東徹次郎
 2位 34 34 assetテクノ Z34 佐々木雅弘/前嶋秀司/佐藤公哉
 3位 35 35 assetテクノ Z33 NAKACHIN/浜野彰彦/堀 翔

ホンダカーズが圧勝。

[決勝結果]
 優勝 62 ホンダカーズ東京G/Mインテグラ 塩谷烈州/太田侑弥
 2位 60 RCB with KRPウインマックス・テインDC5 小林康一/関 豊/板野将之
 3位 95 リジカラWM.S2000 中島保典/ピストン西澤/中曽根雄太



[決勝結果]
 優勝 36 エンドレスアドバントラストウィッツ 駒木孝有/添田 正/井尻 薫
 2位 230 WAKO'S アクレオクヤマ Vitz たねぞう/勝間田正博
 3位 19 BRP☆HYPPER ECU C72制動屋FFC J'sフィットRS 奥村浩一/前山 亘/西田公也



THE FACE

CLOSE-UP

Kouichi
OKUMURA
奥村浩一

Text by M. Shimamura

Photo: Y. Tetsutani

メジャーな市販車、フィットで スーパー耐久に参戦、格闘中!

果ては世界中の耐久レースで活躍中のアウディR8やBMW Z4 COUPEから、日本国内で広く乗られているヴィッツまで。これらはすべて、スーパー耐久シリーズ2011に参戦するクルマだ。5つのクラスに区分されるレースには、SUPER GTに参戦中のプロドライバーの姿もある。だが参戦するほとんどのドライバーはセミプロあるいはアマチュアである。

そんな中、Birth Racing Project (以下、BRP) の代表としてST-5クラスにホンダフィットで参戦するのが、奥村浩一だ。モータースポーツとの関わりは、チューニングカーでのタイムアタックから。以後、クローズドサーキットでのレース参戦を開始する。まずはワンメイクのスプリントレースでキャリアを重ね、耐久レースへとステップアップ。その活動は国内に留まらず、イギリス・シルバーストンやマレーシア・セパンでの耐久レース参戦にも及んでいる。

様々なレース参戦を経験した奥村は、スーパー耐久にチャレンジするにあたって、あえてフィットを選択した。これには、市販車として一番売れているクルマでレースをすべき、という彼の強いこだわりがある。身近なクルマで挑むことに、真の戦いが存在するというのだ。同時に彼が関わるBRPでは、ドライバー育成という目的があり、そのためにも最適なクルマでもあるという。このコンパクトなクルマにこそドライバーとしてのテクニックを磨き、

センスを身につけるヒントが潜在するというわけだ。それはフィットがアンダーパワーであり、それゆえに難しいクルマのコントロールをクリアしてこそ、レーシングドライバーとして速さを追求できると奥村は確信している。

単純に耐久レースを楽しみたいのであれば、すでに実績のあるクルマで参戦すればいい。だが、じっくりとレースに取り組み、たとえ少しずつでもいいから実力をつけ、その結果、大きな喜びを得られることも大事、という視点で選んだフィットは、レーシングカーとしての実績はなかった。奥村は、そこにも新たな挑戦という意義を見出したことになる。今季、生みの苦しみをもって成長を遂げてきた奥村。そして彼が率いるBRP。来季にむけて、いっそうの飛躍に大きな期待がかかる。

[ドライバープロフィール]

1975年6月11日生まれ、三重県出身。98年にチューニングカータイムアタック大会に参戦。式レースへとスイッチしたのは、2008年。日産マーチカップ西日本シリーズにフル参戦した。以後、マーチでのワンメイクレースへのシリーズ参戦を重ねる一方、2010年には、スーパー耐久シリーズのST-4クラスからの参戦を果たした。加えて同年は海外レースへも果敢に挑戦。イギリス・シルバーストン24時間レースにはホンダUKワークスから、またマレーシア・セパン12時間耐久レースではマレーシアトヨタTRDワークスチームから参戦。今季、BRPとしてスーパー耐久ST-5クラスに挑戦した。

